

1764年の朝鮮通信使の 視座からみる日本意識

鄭 敬珍(ジョン キョンジン)

(法政大学大学院人文科学研究科国際日本学インスティテュート博士後期課程)

江戸入りを果たした最後の使行となった明和年間（1764）の朝鮮通信使の訪日。500人余りの朝鮮通信使の一行の中には、日本各地で日本人と対面し、詩文の唱和や筆談を交わしていた製述官・書記という役割の人々がいた。果たして彼らの目に映った日本・日本人のイメージとはどのようなものであったか。さらに、異国の地で芽生えた国を超えた同流意識にも注目。12回にわたる朝鮮通信使の訪日のうち、もっとも多い使行録を残した彼らの記録を辿りながら、通信使という役割から、そして、文人としての視座からみる他国（朝鮮と江戸）意識及び同流意識について考えてみる。

あわせて、彼らに向き合った木村兼葭堂ら、上方文人たちが朝鮮との対比のなかで日本をどのように表現したのかも考えてみたい。

日時：2014年6月26日（木）18:30～21:00

会場：法政大学市ヶ谷キャンパス58年館2階

国際日本学研究所セミナー室

司会：小林ふみ子（法政大学国際日本学研究所兼担所員、文学部教授）

■参加申込：下記アドレスの申込専用フォームからお申込みください。

<https://www.event-u.jp/fm/10391.html>

※ 参加費無料 ・ どなたでもご参加いただけます



法政大学国際日本学研究所

TEL:03-3264-9682

FAX:03-3264-9884

<http://hijas.hosei.ac.jp>

E-mail: nihon@hosei.ac.jp

